

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	進行性胚細胞腫瘍に対する導入化学療法における好中球減少症の危険因子
	研究目的	進行性の胚細胞腫瘍に対する化学療法はその根治性の観点から可能な限り減量を行わず、完遂することが非常に重要である。主にシスプラチンをベースとした化学療法が行われるがその過程においてしばしば好中球減少及び発熱性好中球減少症が発生し減量あるいは投与の中止をせざるを得ない場合がある。本邦における胚細胞腫瘍に対する化学療法における好中球減少のリスク因子を解析した報告は非常に少なく、ガイドラインにおいてもGCSF製剤の予防投与等に関する明確なエビデンスは記載されていない。 そこで本研究では2005-2018年3月までに初回導入化学療法を行なった75例の1コース目の好中球減少及び発熱性好中球減少症の発生に関してリスク因子の検討を行なった。リスク因子を同定することで、GCSF製剤の予防投与の適応基準や積極的な感染対策を行うことができる可能性がある。
	研究期間	西暦 2018 年 6 月 30 日 ~ 西暦 2018 年 7 月 30 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)	<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録	
試料・情報の 管理について の責任者	研究責任者	小林幸太
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	泌尿器科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし